

2019.4.18
vol.74

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品『黄色いリボン』



退役を間近に控えた騎兵隊の大尉ネイサンは、隊長の妻と姪を護送する任務を仰せつかった。しかし彼らの隊は、インディアンの大軍に行く手を阻まれ、砦に舞い戻ることを余儀なくされる。そしてネイサンの任期は切れ、彼は仕事に未練を残しつつも、志半ばで退役。だが、彼の退役を記念して贈られた時計が、任期の期限までまだ4時間ほど残されていることを告げる。ネイサンは、集結しつつあるインディアンを、4時間という限られた時間の中で追い払おうとするが……。

監督：ジョン・フォード

出演：ジョン・ウェイン、ジョーン・ドルー
ジョン・エイガー、ベン・ジョンソン

製作：1949年 アメリカ カラー 103分

『西部劇を読む事典』	芦原 伸／著	天夢人	778.253
『いつか見た映画館 上』	大林 宣彦／著	七つ森書館	778.2
『ジョン・フォードを楽しむ』西部劇の神様		近代映画社	778.253
『誇り高き西部劇』	逢坂 剛／著	新書館	778.253
『大いなる西部劇』	逢坂 剛／著	新書館	778.253
『今日も映画日和』	和田 誠／著	文芸春秋	778.04
『ジョン・フォード伝』 親父と呼ばれた映画監督	ダン・フォード／著	文芸春秋	778.253
『ジョン・ウェインはなぜ死んだか』	広瀬 隆／著	新潮社	778.253
『Duke ジョン・ウェイン』	ドナルド・シェパード／[ほか]共著	近代映画社	778.253
『映画で学ぶアメリカ文化』 U★S★A in the movies	八尋 春海／編著	スクリーンプレイ 出版	778.253
『知っておきたい映画監督』外国映画編	キネマ旬報社／編	キネマ旬報社	778.28
『老いてこそわかる映画がある』 シニアのための映画案内	吉村 英夫／著	大月書店	778.2

コラム『黄色いリボン』

黄色いリボンは誰のため？ K.M.

今回は、2012年8月の、第19回上映会作品であるジョン・フォード監督の『黄色いリボン』の再上映です。1876年のアメリカ西部、インディアンの脅威が迫り、騎兵隊が駐留するストック砦の周辺は不穏な空気が漂っています。退役を6日後に控えた騎兵隊のネイサン大尉（ジョン・ウェイン）は、最後の任務として、シャイアン族の偵察と周辺防護のため中隊を出動させられます。その際、司令官の命で彼の妻と姪のオリビア（ジョーン・ドルー）を護衛して、東部行きの駅馬車の宿駅まで送ることになりますが、宿駅に着くとそこはすでにインディアンに焼き払われており、砦に舞い戻ることを余儀なくされます。

まさに、いわゆる騎兵隊テーマの西部劇の滑り出しですが、実はこの作品は、フォードが「アメリカ人魂の象徴でもある騎兵隊の生活を愛をこめて描く」、「大好きな西部の大自然を心ゆくまで美しく描く」、「アメリカ開拓に貢献した退役間近の老兵の心境と住み慣れた土地を追われるインディアンの挽歌を、沈みゆく夕陽に見立てて表現する」など、それまでの西部劇とは全く異なる意図を持って創作した「大西部の叙事詩」と評される異色の西部劇なのです。

私の第一印象も、「好感の持てる魅力的な登場人物とその心理描写が冴えるホームドラマのような味わいの西部劇」というものでした。派手な戦闘シーンやガン・プレイなど、西部劇の活劇的要素は極力抑えられており、「これぞ大西部！」と言いたくなる、雄大なモニュメントヴァレーを背景として、辺境の守りにつく騎兵隊の男達とその家族の哀歓が淡々と描かれていきます。

初めての老け役（撮影時は42歳）に挑んだジョン・ウェインが、退役が目前に迫った老大尉の哀歓を見事に演じており、この作品はまさに、ジョン・ウェインのための映画と言ってもいいかもしれません。ジョン・ウェインの演じる老大尉の「敵の作戦に対する読み」、「敵の長老との信頼関係」、「大胆さと実行力」、「愛情をベースにもつ統率力」など、総合的な人間力に秀でた人物像はとても魅

力的で、現代社会の組織でも通用しそうです。

この作品は、髪に「黄色いリボン」をつけて登場して砦の若き男たちを色めかせるオリヴィアや、兵隊おばさんとして活躍する司令官夫人、また要所にさりげなく登場する諧謔と機知に富みかつ有能な司令官など、きらりと光る魅力的な登場人物が多いのです。特に存在感が大きいのが、大尉付きの従卒クィンカノン軍曹（ヴィクター・マクラグレン）でしょう。コミカルな役回り、主人公の大尉を引き立てつつ、主人公に匹敵するほどの活躍をみせます。この二人の駆け合い漫才的な会話が絶妙です。軍曹が大尉の退役記念に大暴れをするシーンのおかしさや、軍曹がかもし出す絶妙な味わいがなければ、この映画の豊穡さは大幅に失われたに違いありません。

ちなみに、マクラグレンとフォードの付き合いは長く、1935年にフォードがアイルランド独立運動に命をかけた男たちを描いてアカデミー監督賞を得た『男の敵』で、マクラグレンも悲劇的な主人公を演じ、アカデミー主演男優賞を獲得しています。1948年～1950年にかけてのフォードの騎兵隊3部作『アパッチ砦』『黄色いリボン』『リオ・グランデの砦』のすべてに、ジョン・ウェインともども顔を出し、1952年にはフォードの心の故郷アイルランドでのロマンスと騒動を、詩情豊かに描いた『静かなる男』で、ジョン・ウェインと映画史に残る壮絶な殴り合いを演じています。

最後に、この作品では騎兵隊の愛唱歌「She Wore a Yellow Ribbon」が、騎兵隊にいる恋人への愛を込めた主題歌として効果的に使われていますが、その一節に「～あの娘の黄色いリボン、誰のためだか髪飾り～」というくだりがあります。最終的にはオリビアの「黄色いリボン」が、コーヒル中尉のためだったことがわかりますが、これはあくまで、ホームドラマ的な観方に対する一応の回答であり、フォード監督の本意としては、「黄色いリボン」はストック砦の騎兵隊そのものへの、心からの愛を示す象徴だったのだらうと、私は思います。

2/21 『チャップリン ミューチュアル社時代1』の感想

- ・体を張ったギャグって凄いです。CGもないのにどうやって撮ったのか、わからないシーンが幾つかあり驚きました。
- ・とても楽しい時間を友達とすごすことができました。また楽しみにしています。
- ・久しぶりに来られて、大好きなチャップリンを観られて、とても楽しかったです。
- ・70代女 大ファンです。チャップリンの動きは若い頃から変わらないですね。昔を知る事ができてよかったです。
- ・なつかしかった！
- ・チャップリンはすばらしい、
- ・チャップリンを映画で見たのは初めてでした。おもしろかったです。
- ・面白すぎました。1916年にこんな喜劇ができる人は天才ですね。その後の心に残る作品しか知らないなので、初期の作品にびっくりしました。今では、少しこっけいすぎますが、こうしたことを考えることは、普通と違っていたと思いますが、今なら理解できますね。
- ・本当に面白かった。タイムスリップしたような気分です。
- ・長くて短く、引き付ける力がすごいですね。ピアノがよかった
- ・100年前のものとは思われないくらい面白かったです。
- ・100年以上前の作品とは思えない作品です。久しぶりの笑いを得ました。ありがとうございました。
- ・久しぶりに来ましたが、楽しかったです。ありがとうございました！
- ・楽しかった。おもしろかったです。次を楽しみにしています。
- ・よかったです。ありがとうございました。
- ・正直いって、あまり内容はなかったんですが、1916年の映画を見せていただいたことに感謝します。
- ・無声映画が2時間、観ている方は集中力がとぎれてしまいます。途中で退場される人が多かった。
- ・あまりおもしろくなかった！

注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。
また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

サロン・ド・シネマについて

ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリングループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。



第75回上映会のご案内

素晴らしき放浪者

字幕上映

BOUDU SAUVE DES EAUX



5月16日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

主人公ブデュは気ままな放浪者。けれど、この世はずでに楽しくない -- と一足飛びにあの世行きを図ってセーヌに身を投げた所、河縁の古本屋の親父に助けられ、英雄とされた彼のその家に居候。持ち前の豪胆さで奥方を寝取るが、旦那の情婦だった女中のアンヌ・マリともネンゴロになり、結婚を決める。が、式の当日、舟で河を往くお披露目の最中、川面に浮かぶ蓮の花に手を伸ばし、舟は転覆。山高帽一つ残し……。

監督：ジャン・ルノワール

出演：ミシェル・シモン

シャルル・グランバル

製作：1932年 フランス モノクロ 84分

2019年度の上映のご案内 (上映作品は変更になる場合があります。)

2020年1月～3月ホール改修工事のため、2019年度の上映会は下記の通りとなります。

第76回	6月20日(木)	『黄金の腕』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第77回	7月18日(木)	『ゴリオ爺さん』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第78回	8月22日(木)	『ティファニーで朝食を』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第79回	9月19日(木)	『自由を我等に』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第80回	10月17日(木)	『終着駅』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第81回	11月28日(木)	『キリマンジャロの雪』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第82回	12月19日(木)	『ビューティフルメモリー』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~

上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。